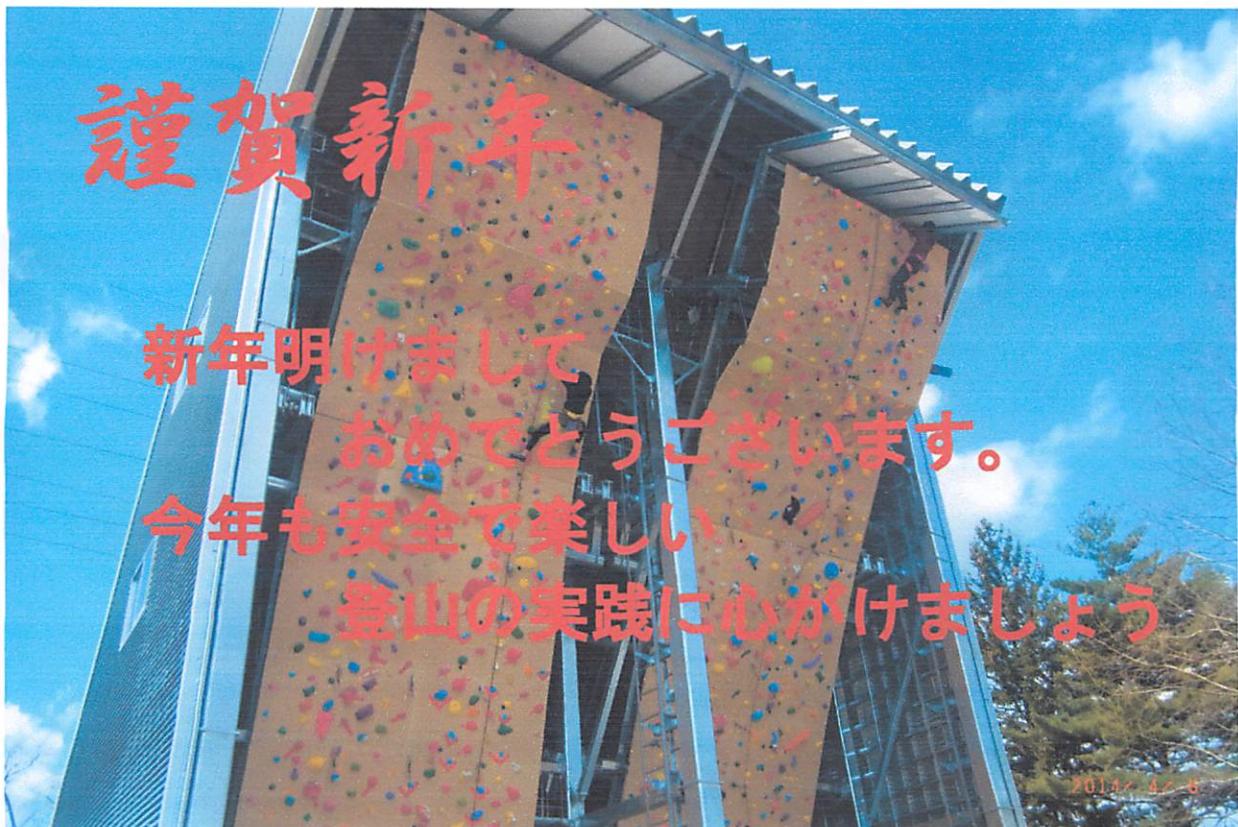


山協ニュース

岩手県山岳協会
第188号
平成27年1月5日発行
long-distance.jp/sangaku/



初冬期講習会兼指導員研修会早池峰山で開催

本格的な冬山シーズンを迎える恒例の初冬期冬山講習会兼指導員研修会を12月6日(土)から7日(日)の2日間早池峰山で実施しました。(以下、指導部の報告)

初冬期登山講習会報告(早池峰山)【H26/12/6(土)・7(日)】

12/6(土) 小泉(盛岡山想会)、足立勝・鬼川博昭(高体連)、田沼政司(盛岡 RCC)、阿部哲・及川真紀(北上山岳会)、佐々木聖人(矢巾町山岳協会)、菊池眞市・鎌田芳弘(岩手アルペンローズ)の9人が揃った。残り5名は後発だ。

13:15 開講式。自己紹介の後に小泉氏に挨拶。

13:30 出発。鎌田先頭。なかなか快調なペース。出だしからくるぶしまでの積雪。早朝から入山した北上山岳会の諏訪木隊のスキーのトレースが2条。小泉氏が200mでラッセルを交代

の具体的な指示す。14:15 魚止の滝 820m。ワカンやスノーシューをつける。小泉氏がトレースの幅と歩幅を演示指導。この先からラッセルがだいぶ本格的になってきた。ちょうど手頃なラッセル訓練。これだけ人数だとラッセルも楽だ。14:48 清蓮の。先頭のラッセルペースのばらつきで隊列がばらけがち。15:33 笛貫の滝。道は下りになってさらに雪が深くなってきた。15:55 うすゆき山荘着。またたく間に



暗闇がおりてきた。16:39 鎌田・足立到着。しだいに小屋に熱気が満ちてきた。17:47 松岡・長畠・松山(岩手アルペンローズ)が到着。7時前には土井講師が到着し交流の炎が燃え上がった。10時土井講師による就寝宣言で一同寝静まる。

12/7(日) ビバーク用装備を携行するようにと土井講師からの指示。総勢 13 人となればさすがに足並みが乱れる。6:20 出発。今朝一番の先陣ラッセルは検定生の松山。昨夜の降雪で消えかかったトレースをたどりつつも快調にとばす。ここ数年の講習会では見られなかった頼もししい光景だ 7:03 河原の坊。沢はまだ水面が開いている。樹林帯の吹き溜まりでは昨日の諏訪木隊のトレースも薄れがち。まもなく膝上のラッセル。気象ロボット付近でトレースが消えた。この先は処女雪。腰までのラッセル。それでも最後尾は舗装道路だ。検定生の駒ヶ嶺(北上山岳会)が追いついて 14 名全員集合。すぐさま先頭でラッセルを開始。8:30 頭氷 U 字谷手前で休憩。ここ2週間で断続的に積もった雪が2層構造をつくっている。表層 1m の支持層を踏み抜くと腰までもぐる。この境界も上下でなじんでおり雪崩そうにない。頭氷を乗越して尾根筋にでるが風はさほど強くはない。この上の御座走りまでのガリーにはいつものようく雪が吹き溜まっている。視界はガスに閉ざされている。ラッセル交代を重ねるとガリーが広がりだ

して岩稜帯。

10:00 ガリー上端付近の岩稜。ここからアイゼンワークの訓練。這い松が岩に絡みつき隙間を雪が覆い隠した悪場が続く。御座走りから続く斜面には吹き溜まった雪が盛り上がっている。雪崩を警戒しこれを右からまく。打石右基部へ 20m ほど雪面を右トラバースする部分がわるい。思わず足



さばきが早まる。10:48 打石到着。

ここで登高中止。ツアッケの躊躇転倒に最大限の注意をはらっての下山するよう指示。瞬時の滑落停止れを可能にするピッケルの握り方を指導。11:00 下山開始。11:22 御座走り。11:35 テポ地。12:00 頭氷。アイゼンをはずす。2:57 河原の坊。13:30 うすゆき山荘帰着。雪景色だけが単調な下りを癒す。15:25 峰南荘駐車場帰着。

15:40 閉講式。小泉顧問がアイゼン歩行の講評。土井講師から岩稜帯でのアイゼン歩行技術の向上と岩手山厳冬期講習会への参加案内。紅一点の貴重な参加者である及川さんから感想で締めくくり。

15:45 解散。例年になく豊富な雪と初冬にふさわしい天候に恵まれて、当初の目的であった雪中歩行技術、耐寒訓練、ピッケル・アイゼン技術をとどおりなく消化できた実り豊かな講習会となった。【指導部：菊池眞市記】

名誉会員中谷充氏岩手県教育委員会社会体育功労表彰

名誉会員出堀宏明氏文部科学省スポーツ功労表彰

評議員佐藤安美氏岩手県体育功労表彰 受賞祝賀会

並びに「がんばらんば長崎国体」、「南関東全国高校総体登山大会」報告会開催

平成 26 年 11 月 22 日 (土) 午後 3 時からホテルメトロポリタンレ盛岡ニューウイングで、中谷充氏の岩手県教育委員会社会体育功労表彰、出堀宏明氏の文部科学省スポーツ功労表彰、佐藤安美氏の岩手県体育功労表彰受賞祝賀会並びに「がんばらんば長崎国体」山岳競技、南関東全国高校総体登山大会報告会が開催されました。

会場には、来賓の岡田久八幡平市副市長、遠藤正紀滝沢市教育長、吉田春彦盛岡市民部参事をはじめ受賞者、選手等 60 人が出席して盛会に開催されました。冒頭高橋会長の挨拶、岡田副市長の祝辞を頂き、受賞者の謝辞、畠山選手強化部長からは、国体報告、新田先生からは、インターハイ報告、選手の皆さんにはささやかな激励品が贈られ、長崎国体での経験、インターハイ

での感想と今後の取組への抱負が各選手から述べられ、懇親に入りました。

なお、今回の受賞の栄を受けられました中谷氏（日本山岳会岩手支部）は、高体連登山部の育成や選手強化を通じて、社会体育の振興に、更には協会と高体連の調整役として長年ご尽力いただいたこと。出堀氏（盛岡山想会）は、協会草創期から発展期そして今日まで協会活動、安全登山の啓蒙、後継者育成等、協会発展に貢献され、また山岳

遭難救助や文部科学省登山研修所講師として尽力、佐藤安美氏は長年協会役員として、地元和賀町山岳会の会長等として各種講習会、山岳競技の開催に協力頂くとともに地域での遭難対策や登山を通じて社会体育の振興に貢献されました。受賞されましたお三方には、引き続き協会発展のためご指導を賜りますようお願いします。また、選手監督の皆さんには、悔しさをバネに更に精進されるよう期待したい。

花巻市長上田東一氏に協会顧問ご委嘱

12月 15 日花巻市役所に高橋会長、小山理事長、中村理事が花巻市長の上田東一氏を表敬訪問し、協会顧問への就任を要請。上田市長からご快諾を頂き顧問としてご指導を頂くことになりました。

感謝申し上げたいと思います。花巻市は、旧大迫町時代の昭和 45 年開催の国体山岳競技会場ゆかりの地として、またエーデルワイスに代表される国定公園早池峰山の貴重な自然、山岳景観、ヨーロッパアルプス交流や当協会 70 年の歴史のなかで深い御縁を頂いているところです。表敬の際は、上田市長の東大法学部時代の北アルプス等本格的な登山活動の経験談や早池峰山、岩手山等岩手の登山や山岳観光等の話題を中心に山への思いをお聞きする楽しい時間となりました。今後、様々な角度でのアドバイスを頂きながら連携を密に活動をして行きたいと思います。



協会名誉会員・顧問懇談会の開催

平成 26 年度岩手県山岳協会名誉会員・顧問会議が、平成 26 年 12 月 13 日（土）サンセール盛岡で開催。会議には名誉会員矢羽々昭夫、出堀宏明、中谷 充の各氏、顧問の矢羽々文一郎、工藤洋司、渡辺正蔵、国本旗男、古澤勝三、佐藤時男、川村芳正、小泉昌弘、波岡浩の各氏。執行部からは、高橋時夫会長、鈴木主計、吉田春彦、武田勝栄各副会長、小山勝稔理事長、畠山 晃副理事長、遠藤敏英、佐藤 誠、植田瑞穂、鎌田芳弘各部長、中村浩之理事の 22 名が出席。出席の皆さんからは、次のような建設的な、応援の意見が寄せられました。

東京圏内の役員が多い。全日本や国体を控えている全国理事として再任できないか。

公益法人となり 2 年目、規約で定まった定数である。理事会では必要に応じて発言の機会を持っている。岩手の任期 2 年が終わり来年度からは、秋田県が担当。

日山協理事といつても、宿泊費、懇親会旅費等個人に負担を強いいる面もあり簡単にはいかない。もっと各ブロックの意見の収集してくれる体制にして欲しい。

機会を見て要望したい。

懇談会が一時間半では短すぎる、もっと時間を取ってほしい。

登山指導者の育成は、組織的にやっているか。選手強化のため指導者の育成が大事。選手強化募金の在り方を工夫すべき。

今年の長崎国体での岩手県は天皇杯 38 番である。監督が突然変わったり、選手が変わったりしている。少年男女の強化を徹底すべき。

選手強化費は大丈夫か。お金をかけて、よい成績をとるため、国体強化のお金を集めることが主題。今日の会議もこの一点に絞って議論すべき。

顧問に、もっと相談してほしい。中央に負けない、大きな望みを持つべきである。

顧問は、金は出すが、口は出さないということを自覚し、徹底すべきだ。

会議の時間がなさすぎる。国体強化のため必要な経費を具体的に示して、顧問等への協力を求め、顧問はそれに応えるべき。

これらの意見等は、激励として今後の協会運営に役立てていきたいと思います。

平成 26 年度東北総合体育大会山岳競技ブロック会議 (公社)日本山岳協会競技部ブロック別研修会を盛岡で開催

平成 26 年度東北総合体育大会山岳競技ブロック会議・(公社)日本山岳協会競技部ブロック別研修会が、平成 26 年 11 月 29 日（土）と 30 （日）岩手県山岳協会が幹事県となって、盛岡市内のホテルで開催されました。会議には、東北六県各岳連（協会）会長等 16 名が出席、ブロック別研修会には、競技運営員研修講師として(公社)日山協競技部競技運営委員長西原斗司男氏、C 級審判員研修講師として同競技運営常任委員佐原晴人氏、運営員研修には、東北六県から 19 名、C 級審判員研修には、22 が受講しました。

ブロック会議は、(1) 日山協理事会報告関連では、日山協は、今年は赤字決算とならないよう適切な予算執行に留意するよう指摘があった。(2) 第 41 回東北総合体育大会山岳競技開催結果報告では、平成 27 年度からは、競技開催要項に基づき種別総合表彰を行う。②競技施設の撤収作業は、競技終了後に行うよう徹底する。③競技役員の服装、履物が一部不適切である。役員は選手の手本になるべき。日山協競技規則への明記の必要性の検討。④競技エリアへの関係者以外の立入り禁止。⑤主任審判員の役割の明確化を図ること。⑥セッター



基づき種別総合表彰を行う。②競技施設の撤収作業は、競技終了後に行うよう徹底する。③競技役員の服装、履物が一部不適切である。役員は選手の手本になるべき。日山協競技規則への明記の必要性の検討。④競技エリアへの関係者以外の立入り禁止。⑤主任審判員の役割の明確化を図ること。⑥セッター

の運営面への関与がないよう事前に調整する。⑦今年の東北総体の成年女子の青森、秋田の順位に間違いがあった。国体成年女子リードで愛媛の集計ミスがあり岩手と愛媛の順位に影響がでた。成績は、間違いでは済まないのでチェックの徹底が必要。

(3) 平成 27 年度開催の東北総合体育大会山岳競技は、岩手県で開催する。運営については、(公社)日本山岳協会国体山岳競技規則等に準じて開催する。従って、審判員と競技運営員の業務分担を(公社)日本山岳協会国体山岳競技規則等に準じて実施する。審判は、ジャッジに専念、アイソレーションからコールゾーン等の運営は、運営員とする。

(4) 御嶽山の噴火と登山者への啓蒙について、東北ブロック各県の動きについての情報交換を行い、
①. 登山届の励行。②. ヘルメット持参の山行、山小屋へのヘルメット常備。③. 火山性微動情報があるときは、登山者に登山の自粛を呼びかける。④. シェルター化した山小屋・避難小屋の設置。等については、その必要性の共通認識に立ち、各県で其々状況を見定めながら対応して行くこととする。なお、関連して各県から下記の意見が出された。
・ 登山届については、実効性を確保できるものの検討。入山届の提出の啓蒙（山菜取り、ハイキングでの入山者にも対応したもの）。日山協、所轄警察本部ホームページを利用した届出の呼びかけ。関係する遭対委員会を通じた啓蒙、所属山岳会、家族、友人へ連絡の徹底の呼びかけ。

(5) 平成 27 年度開催の全日本登山体育大会宮城大会については、近県開催でもあり、東北ブロックにおいて大会成功に向けて、各県 5 人以上の参加を呼びかけていく。サポート要請についてもできる限り協力していくことを確認。

(6) 今年度で任期満了となる(公社)日本山岳協会平成 27・28 年度東北ブロック代表理事の推薦については、斎藤喜代志氏(秋田県山岳連盟会長)の推薦を満場一致で決定。

(7) (公社)日本山岳協会組織の三部制移行に伴う各岳連(協会)の組織改編に伴う、各県の対応や競技登山と岳連(協会)運営について意見交換した。
・ 県内の他団体での不祥事の発生で、事故への法的対応のため法人化への移行指導が県内上部団体からある。(青森)
・ 日山協の三部制の定着を待つて検討したい。公益事業により会員のみの共益事業から一般県民対象の公益事業への取組に伴う事故対応等事業の拡大やスポーツクライミング、一般登山者対応等活動方針の再検討の必要がある。(岩手)
・ 部制等すでに日山協に対応した改正をすでに行なった。(山形)
・ 会員の高齢化、若年層の組織離れ等所属団体、支部の強化が喫緊の課題。(福島)
◎競技登山と岳連(協会)運営については、
・ 競技登山は、割切って取組む必要がある。トレランが組織化志向にある(青森)
・ 選手登録制度導入により、組織未加入選手の登録、県大会出場の取り扱いで苦慮(岩手)
・ 岳連個人会員は、スポーツクライミングの愛好者が中心(秋田)
・ 岳連加盟と選手登録の在り方の検討(宮城)
・ 選手のウェーブ登録で混乱をきたした。大会運営は、福島県フリークライミング協会に依頼。(福島)

(8) (公社)日本山岳協会の参与制度については、制度の歴史的背景と今後の参与制度の展望と位置づけの検討が必要。

(9) その他
① 日山協登山月報について・東北ブロック会議の内容についても、登山月報に掲載してほしい。
・ 結果の報告、国際会議、国際大会報告が中心、寄贈図書欄は必要があるのか。
・ 編集者は、原稿が集まらなくて苦労している。内容の充実に協力していく必要がある。

平成 26 年度公益社団法人日本山岳協会第3回理事会報告

平成 26 年度(公社)日本山岳協会第3回理事会が平成 26 年 11 月 9 日(日)東京都岸記念体育会館で開催され、高橋会長が出席。神崎会長は、「長崎ジャパンカップ、インターハイ、日中韓レスキー研修、徳島全日大会、長崎国体と続き、予定通り終了した。理事が活動の中心で地方での行事が多かった。課題対応等思い通りの結果を出せない思いもある。今後も公益社団法人としての理念、目標を堅持して日本の山岳界のリーダーシップをとれる日山協でありたい。」と挨拶。主な協議結果、内容は次の通り。

日山協ワーキンググループが遅々として進んでいない。アクションプランに支障を来している。

御嶽山の噴火では、一般の方々から「なぜ山に登るのか」等クレームを多く頂いた。火山予知連の下に「火山情報の提供に関する検討会」が設置され日山協も構成員。火山情報について日山協のホームページで気象庁のデータを公開している。

高校生の選手登録者数は、7472人となり登録料収入が増加した。

『山の日』の祝日が法制化され平成28年8月11日から祝日施行。

山岳共済の名称を「山岳保険」へ変更する。各岳連(協会)の協力をお願いしたい。

日山協改革ワーキンググループの作業の遅れの原因是。…これまでの経緯もありなかなか変革できない。2020年以降の国体は、室内での開催を進める方向で開催県へお願いしている。

参与会26秋の例会

岩手県山岳協会参与会の26秋季例会が10月21日(火)盛岡市の北ホテルで開催。会場には、参与会員22名が出席。協会からは、高橋会長が出席し日頃の協会への支援等への感謝と祝いのことばを述べました。斎藤善也会長からは、「お酒を飲みながら談笑する楽しい会にして欲しい。」との挨拶があり、申し合わせとして、事業は会員の親睦を主体とし、年会費制はなくし、その都度の会費制とする。行事は主に、春の観桜会、秋の芋の子会等とする。などの方針が確認され和やかな懇親の場となりました。協会OB、参与の皆さん、今年の花見会にはお気軽に参加してみてはいかがでしょう。

ベトナム最高峰ファンシーパン(3143m)登頂記

県民とともに登る遠征登山の海外版が、昨年に引き続き登山普及部の主幹でベトナム最高峰のファンシーパンで加盟団体会員10名、一般1名計11名が参加し、11月2日から9日までの8日間の日程で行われました。健脚ぞろいの遠征隊は、天候には恵まれなかったものの全員登頂し大きな成果を収めて帰国しました。乾季に入ったベトナムでしたが、ファンシーパン登山の2日間は天候が悪く足場が悪い登山道をよく無事に全員登頂できたものだと思いました。日本出国からファンシーパン登山そして帰国までの状況を報告いたします。

11月2日(木)くもり(夕方から小雨) 成田～ハノイ～(ラオカイへの寝台車)

参加者11名、添乗員1名の計12名が成田空港に集合し、ベトナム航空直行便でベトナムへ(所要6時間30分)。ハノイは曇り空で、ガイドのファイさんの出迎えを受け専用車(マイクロバス)でハノイ市内観光へ。一桂寺、ホーチミン陵外観を見学し夕食後ハノイ駅へ。ハノイ駅を寝台車で一路ラオカイへ。列車は一部屋4人で、向かい合わせの上下の2段ベットで同室の方々と昔乗った思い出をなつかしく語り合った。列車はゆっくりで、横に揺れたり縦に揺れたりで寝ながら地震の夢を見るほどであった。

11月3日(金)小雨(ラオカイへの寝台車)～ラオカイ～サバのホテル

ラオカイ駅に到着後専用車(マイクロバス)で山岳少数民族の暮らす街サバ(標高約1600m)へ。宿泊予定のサバの「チャウロン サバ ホテル」に到着後ホテルで朝食(ベトナム料理のバイキング)。食事後午前中は少数民族のモン族やザオ族の暮らすラオチャイ村とタバーン村へ、棚田が広がる美しい風景を眺めながらのんびりトレッキングを楽しむ。観光後ホテルにチェックインし、夕食のレストランまでの間にサバの街を探索。市場、教会、途中ファンシーパン登山の山岳ガイド・トゥンさんを紹介される。夕食はアカ族のレストランでの民族料理。

11月4日(土)雨 サバのホテル～ファンシーパン登山口～第2キャンプ

早めの朝食。7:55 サバのホテル出発。8:23 チャムトン峠着。登山口には大きなゲート(チャムトンゲート)があり横には大きな建物があり管理事務所ということであった。管理事務所の並びの建物の横にバスを着け平屋のピロティのような建物で登山の準備をした。

8:48 登山開始。登山ガイド・トゥンさんを先頭に参加者とガイドのファイさんも参加しての登山となる。荷物を運んでくれるポーターも合流。(ポーターは全員分の食料、水、寝袋、私たちの余分な荷

物の荷揚げ) 登山ガイドやポーターは大きなビニール袋で雨具を作成。添乗員は少数民族の村の見学へ。登山道は少し歩いて下りになり沢の所まで下りその後は登ったり下ったりしながら渡河を繰り返した。登山道には標識が無く渡河のくり返しのため最初の道はガイド無しでは難しと思われた。歩き始めから雨が降り出した。乾季と思って来たベトナムも最初から雨での登山となった。緩やかな樹林帯を登り 11：14 第1キャンプに着いた。第1キャンプは大きなテント（L型鋼と竹の柱にブルーシートを張ったもの。床は板にブルーシートを敷いていた。）。雨具の中の汗で濡れた体をテントの中で休めた。昼食はポーターが運んできた固い赤飯の弁当と副食で、赤飯は何とか食べた人と残した人とまちまちであった。12：14 第1キャンプを出発。登り下りをくり返し 15：16 第2キャンプに到着。第2キャンプは大きな建物の山小屋と大きめのテント（ブルーシートを使った家型のテント）。我がパーティーは早めの到着のため全員建物の中に宿泊。6人宿泊の部屋を2部屋使用。ヨーロッパ系の外国人も何人か宿泊。食事は多めの郷土料理。さっそく酒宴の部屋あり。濡れた服を乾かしたり着替えたりし、用意してあつた寝袋に入りこむ。外は風雨が収まらず窓に吹き付ける雨音で明日の天気が心配。開いている天井を通して聞こえてくるの酒宴の声も気になり、またトイレの入口の戸の音も気になり中々寝付かれず。

11月5日(水) 小雨時々くもり 第2キャンプ～ファンシーパン山頂～登山口～ホームステイ

起床時間より早い6時前に起床。夜中じゅう降り続いている雨は朝になると小降りになっていた。荷物整理、朝食を済ませ。8：28 第2キャンプを出発。当初登りで、竹林の中を10分ほどで平坦になり、花が咲いていた。標高も少しづつ上がり岩場や梯子が出てきた。エレファントの頭を過ぎ急降下、急登のくり返しで、雨のため登山道が泥の所が多くなった。観光用のゴンドラ工事の工事現場を過ぎ、9：01 ファンシーパン頂上に到着。思ったより大変な登山道であった。参加者全員の登頂であり、雨や足場の悪い登山道、岩場の急降下、急登高等大変な状況での登山であったため喜びもひとしおであった。山頂の三角形の標識の横で代わる代わる記念写真を撮り、全員での記念写真撮影後下山した。登山ガイドが飲み物を用意してくれたが、雨も降り出し風も出てきたので断って下山することにする。晴れていればラオスや中国・雲南省の山並みを見ることができたのに残念であった。9：21 ファンシーパン頂上に出発。下山は小雨で寒いためか思ったより早く下った感じであった。11：29 第2キャンプ着。昼食及び休憩。12：12 第2キャンプ出発。雨は上がりガスの中を下山。14：53 第1キャンプ着。小休止後下山。最後の沢で泥んこの靴を洗うようにガイドから話がある。17：35 チャムトン峠着。あたりは薄暗くなり、すぐに暗くなつたのでヘットランプを点ける。やんでいた雨が降り始める。

17：50 専用車(マイクロバス)にてチャムトン峠出発。一路サバの少数民族の家へ。外は雨が強くなり、あたりは真っ暗。時折すれ違う車の灯のみ。当初予定は第1キャンプでテント泊であったが、早めに下山し少数民族の家のホームステイに変更。19：00 ホームステイ先に到着。少数民族料理の夕食(無事登頂・下山の乾杯) 薬湯やシャワーなどで汗を流し二階に宿泊。Wベットサイズの布団にゆっくりと寝る。



ファンシーパン頂上にて (後方真ん中の三角錐が山頂の標識・前の2人は偶然入ったベトナム人) : 右が山頂標識

11月6日（木）くもり時々小雨 ホームステイ～（ラオカイへの寝台車）

起床後朝食、その後ホームステイ先の周辺をトレッキング（幼稚園や小学校見学）。ホームステイ先の近くにある小学校からワゴン車で人のみ出発（荷物は後で）昼食をとるサバのレストランに到着。レストランで山岳ガイドのトゥンさんとお別れ。食事後サバを出発。一路ラオカイへ。ラオカイの近くの中国（雲南省）との国境を見学。その後ホテルにて交代でシャワーで汗を流しそのホテルで夕食（ベトナム料理）。夕食後ラオカイ駅へ。寝台列車にてラオカイ駅を出発しハノイへ。

11月7日（金）くもり （ラオカイへの寝台車）～ハノイ

早朝ハノイ駅到着後専用車（大型バス）に乗車。乗客13名（添乗員・ガード含む）が大型バスで移動。4時半過ぎホテル「フォチューナーホテル」到着。ここで朝食をとるが、朝食が始まるまでロビーのソファーで仮眠（勝手に）。朝食（バイキング）はベトナム料理。朝食後ハノイ市内観光へ。文廟（孔子廟と呼ばれるベトナム初の大学が境内に開校されたことから、学問のシンボルとなっている。）では大学生が卒業式後にここを訪れ記念写真を撮っていた。ベトナムは今が卒業シーズンということで、美女がいっぱい。その後、ホアンキエム湖旧市街の散策お土産店など、昼食後ホテル「フォチューナーホテル」にチェックイン。夕方、伝統芸能「水上人形劇」鑑賞後、レストランで夕食（ベトナム料理）。

1月8日（土）くもり ハノイ～ハロン湾～ハノイ

朝食（バイキング）後にチェックアウトし専用車にて世界遺産ハロン湾クルーズ観光へ。ハノイから約4時間150kmのドライブ。クルーズ（約3時間）の途中に島の鍾乳洞へ。昼食は船上でシーフード料理。クルーズ後約4時間をかけハノイへ帰る。ハノイでの夕食はベトナムのフランス料理のレストランへ。おいしいフランス料理を頂いた後ハノイ空港へ。

11月9日（日）くもり ハノイ～（ベトナム航空機）～成田

00:30ベトナム航空にてハノイ空港を飛び立ち一路日本の成田空港へ（所要4時間40分）ジェット気流のせいか帰りは早い。成田空港到着、荷物を受け取り、税関通過後ロビーにて解散。

8日間の海外登山（観光？）は目的の山にも全員無事登頂し、ベトナム観光も楽しくでき、参加者一同満足な様子がありました。次の海外登山の希望を語り夢に見ながら、参加者それぞれの故郷へ帰路に着きました。

第12回岩手県クライミングビギナーズコンペ

12月21日（日）花巻市営大迫体育館において、12回目となるクライミングビギナーズコンペを開催しました。

昨年からこのビギナーズコンペでは、フラッシング方式を採用しており、最初にルートセッターによる登り方の正解を全員で見てから競技が行われます。また、オンライン方式と違い他の選手が競技を行っている所も見ていて良い事が、このフラッシング方式の最大の特徴です。今年の大会には全部で35名のエントリーで開催されました。

北日本海外登山研修会安比高原で開催

11月15日（土）、16日（日）八幡平市安比高原で平成26年度北日本海外登山研究会（会長保坂義明）が開催されました。研究会には、新潟県を含む東北7県から会員等18人が出席。前日からの例年より半月も早い大雪に見舞われ、除雪車が出動するなかでの開催となつたが、海外遠征への熱い思いを寄せる会員が続々と集まる。協会からは、高橋会長が来賓として歓迎のことば、出堀元会長がアコンガクア登頂体験の発表。東京農大村田岳氏の「ムスタ・グアタ・20145」遠征報告などを行われ、最近の海外遠征とざんについての情報交換が行われました。協会からも西館協会副会長はじめ5名が出席されました。

岩手山八合目避難小屋 冬小屋に切替

平成26年11月1日

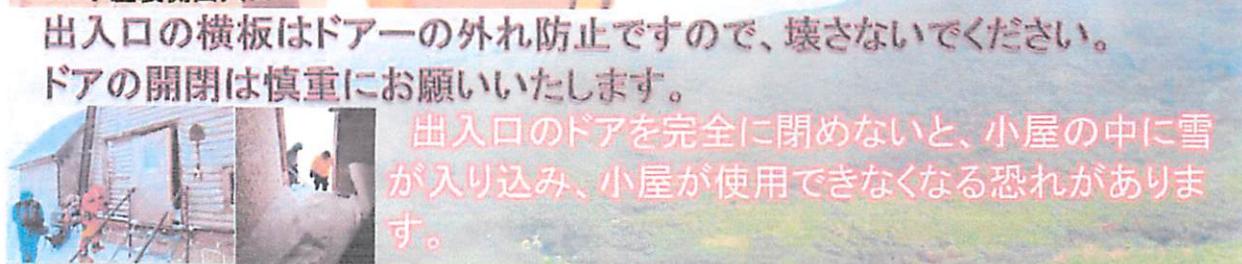
平成26年10月25日～26日にかけ、岩手山八合目避難小屋を、夏小屋から冬小屋に切替を行いました。



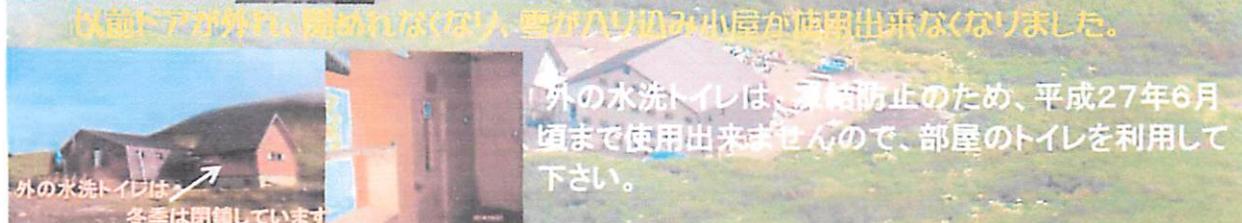
小屋正面入口は、雪の吹込み防止対策のため、二ヶ所とも閉鎖していますので、小屋の裏側の出入口を利用して下さい。



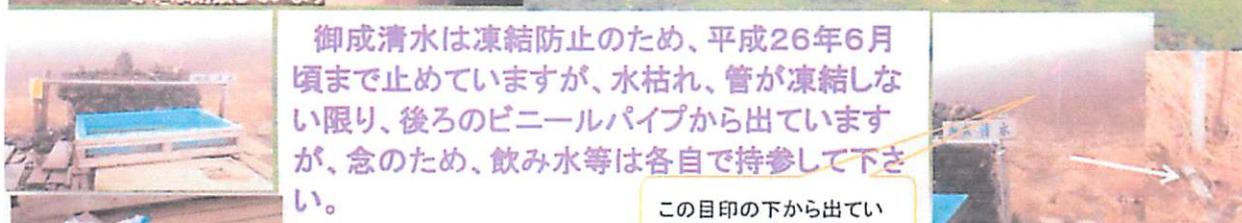
中に入ると靴脱ぎ場が有りますので、アイゼンを外し、靴を脱いでトイレや休憩等にご利用下さい。



出入口のドアを完全に閉めないと、小屋の中に雪が入り込み、小屋が使用できなくなる恐れがあります。

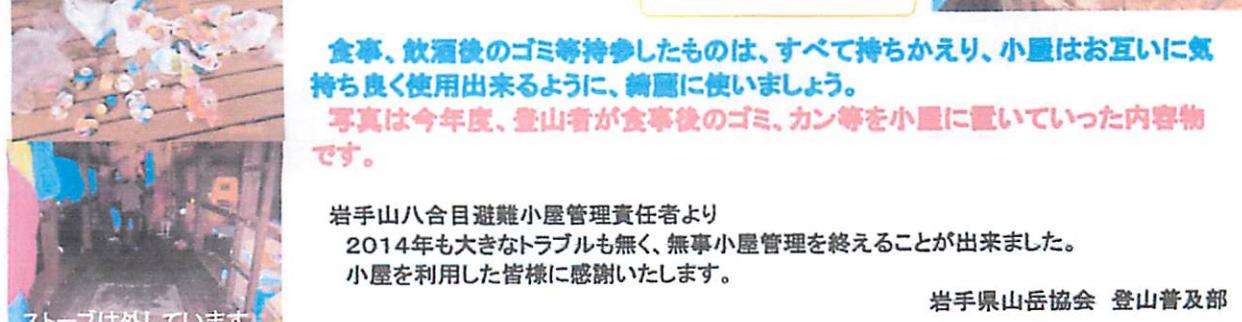


外の水洗トイレは、雪防のため、平成27年6月頃まで使用出来ませんので、部屋のトイレを利用して下さい。



御成清水は凍結防止のため、平成26年6月頃まで止めていますが、水枯れ、管が凍結しない限り、後ろのピニールパイプから出ていますが、念のため、飲み水等は各自で持参して下さい。

この目印の下から出でい



岩手山八合目避難小屋管理責任者より

2014年も大きなトラブルも無く、無事小屋管理を終えることが出来ました。
小屋を利用した皆様に感謝いたします。

岩手県山岳協会 登山普及部

第38回日山協の自然保護委員総会(広島)へ植田瑞穂登山部教部長出席

出席の各山岳連盟(協会)からの報告は、他団体との協力を含めての登山道整備、清掃登山等であった。今回はアジア山岳連盟20周年記念・国際山岳フォーラムも同時開催となった。

各国の発表と質疑応答は全て英語で行われ、内容が今一理解できなかつたが、トイレ問題と自然保護活動の報告であった。

・冬期小屋へ切りかえ 平成26年10月25日(土)～26日(日)

巖鷲山岳会11名 いわてアルペンローズ山岳会1名 翌檜山岳会1名 山想会1名
県山協会長 県山協副会長1名 県山協指導部1名 登山普及部4名 4団体計21名

第4回岩手県高校生クライミング大会及び 第4回全国高等学校選抜クライミング選手権大会

11月2日(日)県営運動公園登攀競技場に於いて第4回岩手県高校生クライミング大会が参加者、高校生60名、小中学生12名で開催されました。

この大会は、12月23・24日に埼玉県加須市で開催される第4回全国高等学校選抜クライミング選手権大会の県予選会を兼ねて行われました。

第4回岩手県高校生クライミング大会

種別	順位	氏名	所属
個人 男子	第1位	山内 韶	盛岡南高校 A
	第2位	千葉 毛利	黒沢尻工業高 A
	第3位	久慈 健史	盛岡第一高 A
個人 女子	第1位	山瀬 奈々子	盛岡第三高
	第2位	成松 咲樹	盛岡第一高 E
	第3位	小林 七海	盛岡南高校 F
学校 順位 男子	第1位	山内 韶	盛岡南高校 A
	早坂 一斗		
	第2位	千葉 毛利	黒沢尻工業高 A
	押切 拓都		
	第3位	木船 拓海	岩手高校 B
学校 順位 女子	阿部 健汰		
	第1位	齋藤 美優	盛岡南高校 F
		小林 七海	
	第2位	成松 咲樹	盛岡第一高校 E
		吉田 みどり	
第3位	熊谷 澄		盛岡南高校 G
		菊池 杏梨	

第4回全国高等学校選抜クライミング選手権大会

種別	順位	氏名	所属
男子	23位	山内 韶	盛岡南高校
	76位	瀬川 韶音	盛岡南高校
	81位	千葉 毛利	黒沢尻工高
	91位	久慈 健史	盛岡第一高
学校対抗男子		10位	盛岡南高校
種別	順位	氏名	所属
女子	16位	山瀬奈々子	盛岡第三高
	60位	成松 咲樹	盛岡第一高
	79位	斎藤 美優	盛岡南高校
	79位	小林 七海	盛岡南高校
学校対抗女子		20位	盛岡南高校

第11回岩手県ボルダリング大会

11月9日(日)県営運動公園ボルダリングルームに於いて、11回目となる岩手県ボルダリング大会が開催されました。

大会ではカテゴリーをジュニア、ビギナー、ミドル、マスター、オープンに分けて最年少小学1年生から一般まで125名の参加で開催されました。

種別		第1位	第2位	第3位	種別		第1位	第2位	第3位
ジュニア 男子	氏名	本明 優哉	今野 蒼生	一戸 藍	ミドル 一般男子	氏名	小田嶋直幸	堀 孝行	山形 忠嘉
	所属	佐倉河小5年	青生小4年	岩手中1年		所属	北上市	一関市	盛岡市
ジュニア 女子	氏名	工藤 朝花	三角 唯香	石嶋 美祐	ミドル 一般女子	氏名	田村 妙子	近藤 圭	小笠原咲子
	所属	厨川小4年	青山小5年	北松園小3年		所属	秋田県	秋田県	盛岡市
ビギナー 少年男子	氏名	野中 広大	野崎 壱紗	小野 雄太	マスター 少年男子	氏名	押切 拓都	石嶋 魁人	瀬川 韶音
	所属	盛岡南高2年	付属中2年	黒沢尻工業2年		所属	黒沢尻工業2年	北松園中2年	盛岡南高2年
ビギナー 少年女子	氏名	熊谷 澄	近谷 岬	田村 奈波	マスター 少年女子	氏名	伊藤 ふたば		
	所属	盛岡南高1年	盛岡第一高1年	盛岡農業1年		所属	東松園小6年		
ビギナー 男子一般	氏名	藤原 拓	三浦 拓	近岡 怜明	マスター 男子一般	氏名	熊谷 喜彦	三上 帝史	伊藤 崇文
	所属	盛岡市	滝沢市			所属	盛岡市	零石町	盛岡市
ビギナー 女子一般	氏名	菊池奈々子	下黒沢香織		マスター 女子一般	氏名	立花 里美	坂本 康子	和田 周子
	所属	滝沢市	零石町			所属	盛岡市	盛岡市	盛岡市
ミドル 少年男子	氏名	鈴木 潤	阿部 健汰	村上 陽彦	オープン 少年男子	氏名	中島 大智	山内 韶	佐々木建彰
	所属	黒沢尻工業2年	岩手高1年	岩手高2年		所属	花巻中2年	盛岡南高1年	厨川中3年
ミドル 少年女子	氏名	吉田 朱羽	吉田 翠羽	齋藤 美優	オープン 男子一般	氏名	藤原 祐樹	藤本 章晃	木下 英介
	所属	北陵中2年	北厨川小6年	盛岡南高2年		所属	神奈川県	盛岡市	

平成27年度岩手県山岳協会定期総会のお知らせ

平成27年度岩手県山岳協会定期総会は、2月7日（土）午後1時30分から盛岡市サンセール盛岡で開催されます。総会議題として平成26年度事業、決算報告、平成27年度事業計画、予算、役員改選等が予定されています。今年は、希望郷いわて国体を来年に控え、本格的な準備やリハーサル大会の一つともなる東北総合体育大会山岳競技の開催など大事な事業も予定されています。加盟団体代議員及び役員の皆さんの出席をお願いします。

訃報 大迫山岳会佐藤時雄さん逝去

(公社)日本山岳協会参与で岩手県山岳協会参与でもあります大迫山岳会の佐藤時雄さんが平成26年4月8日急逝されました。佐藤さんは、ぼつとつなお人柄で長年早池峰山を中心に登山活動に勤しまれ早池峰の自然を守りながら当協会理事としてもご貢献頂きました。特に昭和45年岩手国体では役員として、その後も早池峰山、鶴頭山や薬師岳を会場として幾度となく開催された、全日本登山大会、県民体育大会山岳競技や高体連登山大会では、大変お世話になりました。協会発展へのご貢献、ご尽力に感謝申し上げ心よりご冥福をお祈り申し上げます。合掌

平成26年度第7回常任理事会 26/10/29

◆ 事務局

- ・中谷充(岩手県教育表彰)・出堀宏明(文部科学大臣表彰)・佐藤安美(岩手県体育協会功労賞)受賞祝賀会兼インターハイ・国体報告会について
- ・平成26年度東北ブロック会議・日山協ブロック研修会について

◆ 事業部

- ・第12回クライミングビギナーズコンペについて

◆ 指導部

- ・クライミング認定会・検定会(報告)
- ・初冬期講習・研修会
- ・冬山講習会・研修会

◆ 登山普及部

- ・岩手山八合目避難小屋の冬小屋切替について
- ・ごみの後始末等について

◆ 選手強化部

- ・第11回岩手県ボルダリング大会について
- ・ボルダリング施設の状況について

◆ 国体推進部

- ・71国体県内役員の配置等について

経過報告

- 10/25(土)-26(日) 岩手山八合目避難小屋切替
10/30(木) 第5回部長会
10/31(金) 岩手国体盛岡市実行委員会
第2回常任委員会
10/31(金)-11/3(月) 平成26年度指導員会初冬期訓練
11/2(日) 第5回高校生リード競技大会
11/2(日)-9(日)
11/6(木) 第7回常任理事会
11/9(日) 第11回岩手県ボルダリング大会
11/9(日) (公社)日本山岳協会理事会
11/15(土)
11/17(月)
11/17(月)
11/21(金)-24(月) 第38回日山協自然保護委員総会
11/22(土)

11/29(土)-30(日)	東北六県ブロック会議
11/29(土)-30(日)	日山協ブロック研修会
12/3(水)	
12/4(木)-6(土)	冬山登山計画書検討会 兼冬山登山講習会
12/6(土)-7(日)	初冬期講習・研修会
12/13(土)	
12/13(土)	名譽会員・顧問懇談会
12/15(月)	
12/21(日)	第12回クライミングビギナーズコンペ
12/22(月)-23(火)	全国高等学校選抜クライミング大会

今後の予定

- 1/14(水) 平成26年度会計監査
1/19(月) 平成27年度第1回部長会
1/21(水) 平成27年度第1回常任理事会
1/28(水) 平成27年度第1回評議員会
2/7(土) 平成27年度定期総会